



平成23年9月26日

卓話 『海外から見た日本』

寺澤 芳男 様

麻布の善福寺というお寺に福沢諭吉のお墓があって「独立自尊居士」という戒名が彫ってあります。彼が残した多くの言葉の中で、お弟子さんたちが先生が一番好きだった言葉は多分これであろうとつけた戒名です。これはこれからの日本が最も必要とする言葉だと私は思います。自分の意見を尊重してもらいたければまず他人の意見を尊重し、よく聴かなければいけない。これは近代国家のあり様であって、それを諭吉が明快に表した。彼は咸臨丸でアメリカに行って、敢えてそういう言葉を使えば「打算」ということを勉強して帰りました。「ビジネス」という言葉を日本で最初に使ったのは諭吉です。日本にない、いろんなコンセプトを彼は輸入しました。当時、武士は食わねど高楊枝とか、銭を扱うのは商人であるという、商人を下に見る考えが背景にある中で、「打算」、物事の帳尻をちゃんとつけるという、当時革命的なことを諭吉は言いました。

私は30年海外で暮らし、海外から日本を見てまいりました。日本の良さ、素晴らしさと同時に日本の弱さ脆さを、日本にずっといた日本人よりは鮮明に見ることができたと思います。諭吉のいう独立自尊、個人の考えが確立し少数意見を大事にする国に日本はとうとうならなかった。どうしてそうなのか、日本の文化というものを考えてみました。文化はその土地の人たちの暮らし方。その日本の文化にはアメリカの文化と比べるとどうしても文明となりえない特殊性がある。司馬遼太郎は文明は普遍的で文化は特殊であると言っています。多民族が集まりいろんな文化が濃

過されてアメリカの文化になった。だからアメリカの文化はわかりやすい。ほかの国に受け入れられやすい文明になる。もうひとつ大きなことは日本はアクションが遅い。私の知っ

ている日本人は、ロスアンゼルス地震の時、住んでいた家が半分地震で壊れたら、翌週2万ドルの小切手がカリフォルニア州から送られてきた。今度の東日本大震災では、あなた方は一人ぼっちじゃないという言葉がテレビで何度も流れたけれども、一番大事なのは援助を、例えば一人500万、政府が立て替えてでもいいから待たなして払っておく。そのお金で被災者は新しい仕事を見つけ、家を建て、またそのお金が経済を潤していく。そういうスピーディーなアクションが必要だった。それを思い切ってやる政治家が日本にいなかったことを私は非常に残念に思います。

海外から祖国日本をイライラしながら見て30年が経ちました。ただ絶対に言えることは、日本人は本当にまじめで勤勉で能力もある。この日本人が世界の中でどういう役割をはたしていけるか。私は失望していません。それは日本の優秀な国民を100%信頼しているからです。

最後にゲーテの言葉を紹介します。

「金を失うことは小さく失うことである。
名誉を失うことは大きく失うことである。
勇気を失うことはすべてを失うことである。」
ありがとうございました。

